

こんばんは。

まず、口火を切らせていただきます。

指導者になって良かったことはいっぱいありますね。

その中から、保護者として指導者になってよかったことを書きたいと思います。

良さが集約されていて感動したのは、息子の結婚式で新郎挨拶の中に、「感謝の心を持つ」ことがあったことです。スカウトの時に、口ずさんでいた「ちかいとおきて」が、30歳に成長して、りっぱに自分の言葉になっていたことは、うれしいことです。指導者でなければ、この言葉に感動を覚えることは無かったでしょう。

息子は、VS隊山本副長と同級生です。息子がベンチャー隊になり、岩屋港で徹夜の釣りをするプログラムに、寺町さんと一緒に参加しました。この時はBS隊の副長でした。このプログラムを作成したのは、息子であることを後から聞きました。あじとさばが釣れました。それより感動したのは、停泊していた漁船が朝の4時になると一斉に漁に出掛けた光景で、防波堤に囲まれている港の水面が大きく揺れて荘厳な漁の営みが分かりました。

私は、この体験をさせてくれたことの方が、世の中を体験するベンチャー隊の活動として感動しました。

息子のVS隊でのプログラム体験は、雨の屋久島、豊中から明石までたこ焼きを歩いて食べに行ったこと、日本アルプスの登山など楽しいことばかりだったように思います。指導者だから、息子の活動を理解し感動する度合いが大きいと思います。

家族としての息子との付き合いは、家の外に出ると指導者とスカウトの立場でした。二人で歩いていても、息子からは敬語で話をします。

本当にうれしかった事が一つあります。

息子がVS隊でスキーに参加する時、私は指導者として自分のスキー板と靴を持参します。集合場所は、克明小学校で徒歩15分。スキー板を持って歩くのはかなり苦勞します。二人で家をでたらすぐに、「スキー板を持とうか」と声を掛けてくれました。この時は、持ってくれる気持ちがうれしかったです。

大学に進学すると、カブ隊の夏舎営で指導者が足りないため、息子

をRS隊員として、東京から呼んで手伝いをしてもらいました。気持ちよく応じてくれました。指導は大したことはできませんでしたが、カブ隊のスカウトたちは喜んでくれました。

息子との関わりばかりを書きました。指導者であっても息子の父親です。息子とこんなに長く付き合うことができたことは、指導者が続けていたからだと思います。今でも、2団のHPを見てくれています。「HPを通じてお父さんのことが色々知れて嬉しいです！」とLINEに書きこんでくれました。

ボーイスカウトを通じて、阿吽の呼吸がどこかにあるのでしょうか。一緒に活動をしたことに信頼感を感じるのでしょうか。

これからも指導者続けることで、親子の絆を深められるといいなあと思っています。